

第2学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年10月20日(水) 第2校時
場 所 2年1組教室
指導者 教諭 井上 浩

1 単元構想

単元名	気持ちを音読であらわそう「ニャーゴ」(東京書籍「新しい国語二上」)		
単元の目標	(1)語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 (2)場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (3)物語の内容の大体を捉え、人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表そうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(イ) ②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。(エ)	①これまでの学習を生かして、物語の内容の大体を捉え、人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表そうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表すことができる。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
人物の気持ちが伝わるような「音読発表会」をしよう。		物語の全体を捉えたり、登場人物の会話や様子に着目したりして言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(12時間取扱い 本時10/12)			
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○教科書P125を読み、題名や挿絵から想像を膨らませる。 ○「ニャーゴ」を読み、初発の感想を交流しながら、学習課題を確かめる。	★【態①】(ノート・発言) ○感想や声に出して読んでみたいと思ったところなどを伝え合おうとしている。 ★【知①】(音読) ○ひとまとまりの語や文として音読している。
二	9	○物語の場面分けをする。 ○第1、2場面で起こった出来事を、ノートにまとめながら確かめる。 ○第3場面で起こった出来事を、ノートにまとめながら確かめる。 ○第4、5場面で起こった出来事を、ノートにまとめながら確かめる。 ○第1、2場面の猫とねずみの気持ちを想像し、理由とともに伝え合う。 ○第3場面の猫とねずみの気持ちを想像し、理由とともに伝え合う。 ○第4、5場面の猫とねずみの気持ちを想像し、理由とともに伝え合う。 ○物語に出てくる「ニャーゴ」という言葉をどのように読むとよいか、想像した人物の気持ちを基に考える。(本時) ○考えた読み方を基に、グループに分かれて役割を決め音読する。	★【知①】(音読) ○ひとまとまりの語や文として音読している。 ★【思①】(ノート・発言) ○場面の様子や登場人物の行動を手がかりに内容の大体を捉え場面分けをしている。 ★【思①】(ノート・発言) ○場面の様子や登場人物の行動など、大体の内容を捉えている。 ★【思②】(学習シート・発言) ○場面の様子に着目して登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。 ★【思②】(音読) ○想像したことを基に音読している。
三	1	○「音読発表会」を行う。 ○人物のどのような気持ちをどのような声で表したかを確かめ、本単元で身に付けた力を振り返る。 ★【思②】(音読) ○物語の登場人物の様子や気持ちについて想像を広げて物語を読み深めている。 ★【態①】(ノート・発言) ○本単元での学びを具体的に振り返っている。	★【思②】(学習シート・発言・音読) ○場面の様子を想像し、想像したことを基に音読している。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」(1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。				
教材・題材の価値				
本教材は、人物設定に特徴がある。「食う－食われる」の関係にある猫とねずみの関係が、物語の中で変わっていく。また、会話文や心内語が多く、想像した人物の気持ちを音読で表すことにも適している。文中には、題名でもある「ニャーゴ」という言葉が何度も出てくる。それらの「ニャーゴ」の意味は全て異なる。それぞれの「ニャーゴ」は、言い換えるとどのような言葉になるのか、前後の叙述を手がかりに想像を広げることができる。友達と話し合いながら想像を広げることができ、音読を通して「読むこと」の力をつけるのに適した教材である。				
本単元における系統				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(%) ◇令和2年度標準学力検査結果より(11名)				
小問の内容	誤回答(%)	無回答(%)	正答率(%)	全国正答率(%)
主題を理解している。				
文の中から必要な言葉を探して書く。				
◇児童アンケート結果より(11名)				
調査内容	児童の回答			
読書は好きか。	はい(11)			いいえ(0)
	【理由】			
音読をするとき、どんなことに気を付けているか。				
■本単元の学習に関する意識の状況(%)				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
文章などを声に出して読むことは好きか。				
お話を読むとき、時、場所、人物に気を付けて読んでいる。				
お話を読むとき、人物の様子や気持ちを考えながら読んでいる。				
友達の考えを聞いて、なるほどと思ったり自分の考えが変わったりすることがある。				
■考察				
(資質・能力に関して)				
(学びに関して)				

3 指導に当たっての留意点

- 本単元の基礎基本は、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」である。音読の時間を確保し、姿勢や口形、声の大きさや速さを意識させ、ひとまとまりの語や文として音読させることで基礎基本の定着をはかる。(視点①)
- 本単元で習得させるべき用語は「場面」と「音読」である。「場面」や「音読」を分かりやすい言葉で定義したり、単元の中で繰り返し用いることで用語の習得をめざす。(視点①③)
- 本単元で習得させるべき方法は「場面分けの方法や内容の捉え方」「音読の仕方」である。場面分けの手がかりをもとに場面分けを行ったり、様子や行動が分かるところにサイドラインを引いたりすることで方法の習得をめざす。また音読の仕方を明確にし、自己評価(振り返り)を行うことで方法の習得をめざす。(視点①、③、⑤)
- 一人一人が自分の言葉で自由に発言できる雰囲気づくりを行う。(人権が尊重される授業づくりの視点)

4 本時の学習（10／12）

(1) 目標 人物の気持ちを想像し、「ニャーゴ」という言葉をどのように読むかを考え、音読することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
みとおす	3	1 新出漢字を確認する。	○本單元における新出漢字の定着をはかる。
	12	2 本時のめあてをつかむ。 ①前時までの学習を振り返る。 【めあて】3つの「ニャーゴ」をねこになりきって音読しよう。 人ぶつの気持ちがつたわるような音読はっぴょう会をしよう。	○これまでの学習を振り返り学習の見通しを持たせる。 ○音読するときの『四つの技』を確認し、全文を音読させる。
もとめる	13分	3 3つの「ニャーゴ」をどのように読むかを考える。 ①どんな声で読むかを出し合い、どうして読むのか理由も言う。 ◇(1つ目)大きな声(怖い声)で読みます。 ◇(2つ目)怖い声(大きい声)で読みます。 ◇(3つ目)小さい声(優しい声)で読みます。 ②猫は、どんなことを考えているかを考え、出し合う。 ◇(1つ目)うまそうだな。早く食べたい。 ◇(2つ目)本当はおれは怖いんだぞ。やっと思えるぞ。 ◇(3つ目)うれしいな。ねずみたち、かわいいいな。もも、ありがとう。食べられなくて、残念だったけど……。	○前時までの学習でも簡単に触れているが、猫の気持ちを具体的に想像させたい。 ○1つ目と2つ目の「ニャーゴ」の違いに気付かせる。 ○ペアで話し合い、いろいろな考えがあることに気づき、自信を持って発言できるようにする。
ふかめる	12分	4 猫になって、「ニャーゴ」を音読する。 ①前に出て、音読する。 ②よかったところを伝え合う。 ③音読の振り返りをする。 【期待される学びの姿】 それぞれの場面の猫の気持ちを考え、音読しようとしている。	○お面などを使って、猫になりきって楽しく音読できるようにする。 ○よかったところなどを伝え合うことで、発表してよかったという気持ちを高める。 ○音読するときの『四つの技』を基に振り返りを行う。 【具体的評価規準】思② ○場面の様子を想像し、想像したことを基に音読している。 (方法：学習シート〈台本〉・発言) 【到達していない児童への手立て】 ○教科書の文や挿絵から、猫の気持ちを一緒に考える。
まとめる	5分	5 本時のまとめをする。 【まとめ】 お話のぜんたいを考えると、人ぶつの気持ちももっと分かる。 6 本時で学んだことを共有し、次時の学習内容を確認する。	○人物になりきるためには、どうしたらよいかを問い、本時の学習を振り返らせる。 ○本時で学んだことをいかして、次時は音読発表会に向けて音読の練習をすることを確認する。

【板書計画】

<p>まとめ お話のぜんたいを考えると、人ぶつ の気もちがもつと分かる。</p>	<p>(絵) 3つ目 ニャーゴ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・小さな声 ・やさしい声 	<p>(絵) 2つ目 ニャーゴ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声 ・こわい声 	<p>(絵) 1つ目 ニャーゴ</p>  <p>(気持ち) たいから (りゆう)子ねずみを食べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声 ・こわい声 	<p>めあて 三つのニャーゴをねこになりきって 音読しよう。</p>	<p>(学しゅうのゴール) 人ぶつの気もちがつたわるような 音読はっぴょう会をしよう。</p> <p>ニャーゴ みやにし たつや 十月二十日水よう日</p>
--	---	--	---	--	--

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

<p>【五の場めん】 ・わかれるところ ・子ねずみたちにまた行こうといわれ る</p>	<p>【四の場めん】 ・かえるとちゅう ・子ねずみたちを食べようとするが、 子ねずみたちは分かってない。おみ やげにももをあげる。</p>	<p>【三の場めん】 ・ももの木のあるところ ・ねずみの先生、3びきの子ねずみ ・いっしょにももを食べている。</p>	<p>【二の場めん】 ・学校からももの木にむかうとちゅう ・三びきの子ねずみがねこに出会う。</p>	<p>【一の場めん】 ・ねずみの学校 ・おしゃべりして、先生の話を聞いて いない三びきの子ねずみ。</p>	<p>ニャーゴのお話</p>
---	---	---	--	---	----------------

※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

単元の終わりに、音読発表会を行う。本単元で働かせた見方・考え方（物語の全体を捉えたり、登場人物の会話や様子に着目したりする）をいかして、人物の気持ちが伝わるような音読する。